

次のとおり条件付き一般競争入札を行うので公告する。

令和元年9月3日

宗教法人 長保寺

入札に付する業務の概要		
業務年度	令和元年度	
業務名	国宝(建造物)長保寺大門ほか2棟保存修理事業(災害復旧)(仮) 設計監理業務	
業務場所	和歌山県海南市下津町上 長保寺境内	
工事概要	大門 北東隅鳥衾補修 本堂 丸瓦平瓦差替・補修 多宝塔 亀腹部熨斗瓦・漆喰補修	
工期	契約日より 令和2年3月31日迄	
予定価格	675,400円(消費税及び地方消費税の額を含む。)	
予定価格(税抜き)	614,000円	
施工形態	単体企業	
支払条件	前払金	無
	中間前払金	無
	部分払	可
契約の保証	不要	
議会の議決	不要	
入札に参加する者に必要な資格に関する事項		
文化庁が行う「文化財建造物修理主任技術者講習会」の、「上級コース」または「普通コース」を受講した者を監理技術者として配置できること。		
入札等		
入札書提出期間	令和元年9月4日10時より	令和元年9月18日17時まで
入札場所	長保寺本坊 和歌山県海南市下津町上689 電話・FAX 073-492-1030	
入札書等の提出について	入札書は、「入札場所」に示した場所に原則持参し提出しなければならない。ただし、郵送も可とする。	
開札日において、実施要領第12条の各号のいずれにも該当しない入札書を提出した者が2人以上ないときも、成立することとする。		
開札等に関する事項		
開札日時	令和元年9月18日(入札書提出期間終了後)より令和元年9月20日の間	
落札予定日	令和元年9月20日(金)	
入札結果の公表	落札決定の翌日	
公表方法	落札結果の通知をもって、公表とする。	
契約に関する事項		
落札決定後、契約の日までの期間に、落札者(共同企業体の場合は構成員を含む。)が、実施要領第4条に定めるいずれかの要件を満たさなくなったときは、契約を締結しない。この場合、長保寺は落札者に対し、何ら責任を負わないものとする。		
留意事項		
引き渡し令和元年10月1日以降となるため、税率は10%で契約するものとする。		
特記事項		
開札後に入札参加資格要件の審査における実施要領第16条の規定に基づく技術資料の提出指示を受けた入札者は、不当要求行為等の防止に係る誓約書を併せて提出すること。		
不明点、疑問点は、直接長保寺に問い合わせることとする。		

国宝(建造物)長保寺大門ほか2棟保存修理事業(災害復旧)(仮)
設計監理業務委託仕様書

1. 業務名

国宝(建造物)長保寺大門ほか2棟保存修理事業(災害復旧)設計監理業務(仮)

2. 対象工事名

国宝(建造物)長保寺大門ほか2棟保存修理事業(災害復旧)(仮)

3. 工事場所

和歌山県海南市下津町上690番地他

4. 建造物の構造規模等

県別	和歌山県			
工事の対象	国宝(建造物)長保寺本堂、大門、多宝塔 大 門 三間一戸楼門、入母屋造、本瓦葺 本 堂 桁行五間、梁間五間、入母屋造、向拝一間、本瓦葺 多宝塔 三間多宝塔、本瓦葺			
建造物の大きさ		平面積	軒面積	屋根面積
	大 門	52.53㎡	125.04㎡	170.33㎡
	本 堂	173.17㎡	319.85㎡	430.00㎡
	多宝塔	21.46㎡	77.19㎡	109.85㎡
工 期	工事期間	令和元年(交付決定日以降)～令和2年3月31日		6箇月
	事業期間	令和元年(交付決定日以降)～令和2年3月31日		6箇月
修理方針	本堂：屋根部分修理、大門：屋根部分修理、多宝塔：屋根部分修理			

5. 工事の概要

国宝大門、本堂、多宝塔における、台風により破損した瓦部分の部分修理
工事箇所 五か所程度

6. 対象工事予定期間

契約締結日から、令和2年3月31日まで

7. 設計業務内容

(1) 計画準備

業務計画書を作成・提出する。

(2) 入札用設計図書の作成(仕様書、積算書、図面)

- ・本仕様書に記載されていない事項は「公共建築設計業務委託共通仕様書」による。
- ・単価の積算根拠を備考欄に明示する。

- ・打ち合わせ・協議は、受注時及び納品時のほか、必要に応じて随時行う。
- ・成果品は、次表のとおりとする。

表 成果品の内容

成果物	規格	提出部数等	提出期限
設計図書 <ul style="list-style-type: none"> ・平面図 ・概略屋根伏図 ・工事積算書 ・特記仕様書 ・工事工程表 ・その他建築工事に必要な図面 	A 3 判 同 上 A 4 判 同 上 同 上 同 上	各 3 部、及び 電子データ一式	工事入札まで

8. 監理業務内容

(1) 業務の運営に関する協議及び協力

工事施工計画並びに施工方法の打合せ、協議

(2) 施工監理及び工事指導

- ・施工者との打合せ、説明、協議
- ・設計図書に基づく施工監理
- ・施工図等の承認
- ・工程管理
- ・工事完成確認のための検査への協力
- ・文化庁並びに関係各所への手続き関係書類作成への協力

(3) 実績報告書の作成

上記 (1) (2) を記録した報告書 (3 部及び電子データ一式) の作成

(提出期限：令和 2 年 3 月 3 1 日)

9. その他

1. 留意事項

文化財の保存修理工事に係る設計監理業務であることを十分認識し、事業の実施過程において文化財の価値を損じることのないよう、万全を期すものとする。

2. その他

本仕様書に記載されていない事項又は本仕様書に疑義が生じた場合は、必要に応じて、委託者、受託者双方の協議により定めるものとする。

建設工事に係る条件付き一般競争入札（持参方式・簡易型）実施要領

（趣旨）

第1条 この要領は、長保寺が発注する建設工事及び工事に付随する業務について、受注意欲のある者の入札参加機会を確保するとともに、競争性の向上、発注までの期間の短縮及び入札参加希望者の負担軽減等のため、簡易型の入札を行う場合の手續等に関し、別に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

（対象工事）

第2条 簡易型の条件付き一般競争入札（以下「本競争入札」という。）の対象となる工事（以下「対象工事」という。）は、長保寺(以下「発注者」とする。)が発注する建設工事のうち「予定価格（税抜き）」（予定価格から消費税及び地方消費税相当額を除いたものをいう。以下同じ。）が500万円未満の工事とする。ただし、住職が特に必要と認めるときは、予定価格（税抜き）が500万円以上の工事についても対象とすることができるものとする。

（入札の公告）

第3条 対象工事を本競争入札に付するときは、長保寺ホームページ、もしくは長保寺境内掲示板に掲載し、公告するものとする。

2 前項の規定により公告するときは、次に掲げる事項を和歌山県共通入札公告及び和歌山県個別入札公告例に準じて行うものとする。

- (1) 入札に付する工事の概要に関する事項
- (2) 入札に参加する者に必要な資格に関する事項
- (3) 入札参加手續等に関する事項
- (4) 入札等に関する事項
- (5) 開札等に関する事項
- (6) 審査に関する事項
- (7) 落札者の決定方法に関する事項
- (8) その他本競争入札の手續に関し必要な事項

3 第1項による公告（以下「入札公告」という。）の期間は、原則として10日（和歌山県の休日定める条例（平成元年和歌山県条例第39号）第1条に規定する

県の休日（以下「休日」という。）を含む。）以上とする。

（入札参加資格要件）

第4条 本競争入札に参加できる者は、単体企業（経常建設工事共同企業体を含む。以下同じ。）で、入札書を提出した日から落札決定日までの間、次に掲げる要件を満たしているものとする。

(1) 対象工事に共通する次に掲げる入札参加資格要件を満たしていること。ただし、経常建設工事共同企業体で参加する場合は、すべての構成員がア、イ、オ、カ、キ、ク及びケの要件を満たし、かつ、共同企業体としてウ及びエの要件を満たしていること。

ア 地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の4の規定に該当しない者であること。

イ 建設業法（昭和24年法律第100号）第28条に基づく営業停止の処分を受けていない者であること。

ウ 和歌山県建設工事等契約に係る入札参加資格停止等措置要綱（平成16年6月15日制定）に基づく入札参加資格停止を受けていない者であること。

エ 条件付き一般競争入札における和歌山県建設工事入札参加資格審査取扱い基準（平成19年11月13日施行。以下、「資格審査取扱い基準」という。）若しくは和歌山県外に主たる営業所を有する建設業者に係る条件付き一般競争入札における和歌山県建設工事入札参加資格審査取扱い基準（平成20年12月26日施行。以下「県外建設業者資格審査取扱い基準」という。）に基づく資格の認定を受けている者、又は資格審査取扱い基準若しくは県外建設業者資格審査取扱い基準に基づく資格の再審査による再認定（以下「再認定」という。）を受けている者（以下両者を「資格認定等を受けている者」と総称する。）であること。

オ 和歌山県建設工事等暴力団排除対策措置要綱（昭和62年12月21日制定）に基づく入札参加除外を受けていない者であること。

カ 会社更生法（平成14年法律第154号）に基づき、更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法（平成11年法律第225号）に基づき、再生手続開始の申立てがなされている者（更正手続又は再生手続開始の決定後、競争参加資格の再認定を受けている者を除く。）でないこと。

キ 談合等による損害賠償請求を和歌山県から受けていない者であること。

ク 健康保険法（大正11年法律第70号）第48条、厚生年金保険法（昭和29年法律第115号）第27条及び雇用保険法（昭和49年法律第116号）第7条規定による届出の義務を履行していない者（当該届出の義務がない者を除く。ないこと。

ケ 同一入札に参加しようとする者の間に以下の基準のいずれかに該当する関係がないこと。

(ア)資本関係

以下のいずれかに該当する二者の場合

- ① 子会社等（会社法（平成17年法律第86号）第2条第3号の2に規定する子会社等をいう。②において同じ。）と親会社等（同条第4号の2に規定する親会社等をいう。②において同じ。）の関係にある場合
- ② 親会社等を同じくする子会社等同士の関係にある場合

(イ)人的関係

以下のいずれかに該当する二者の場合。ただし、①については、会社等（会社法施行規則（平成18年法務省令第12号）第2条第3項第2号に規定する会社等をいう。以下同じ。）の一方が民事再生法（平成11年法律第225号）第2条第4号に規定する再生手続が存続中の会社等又は更生会社（会社更生法（平成14年法律第154号）第2条第7項に規定する更生会社をいう。）である場合は除く。

- ① 一方の会社等の役員（株式会社の取締役（指名委員会等設置会社にあつては執行役）、持分会社（合名会社、合資会社若しくは合同会社をいう。）の業務を執行する社員、組合の理事又はこれらに準ずる者をいう。以下同じ。）が、他方の会社等の役員を現に兼ねている場合
- ② 一方の会社等の役員が、他方の会社等の民事再生法第64条第2項又は会社更生法第67条第1項の規定により選任された管財人（以下「管財人」という。）を現に兼ねている場合
- ③ 一方の会社等の管財人が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合

(ウ)その他入札の適正さが阻害されうると認められる場合

- ① 複数の単体企業により構成される組合等（以下「組合等」という。）とその組合等を構成する単体企業の場合

② その他上記(ア)又は(イ)と同視しうる資本関係又は人的関係があると認められる場合

(2) 工事ごとに定める次に掲げる入札参加資格要件のうち、次条の規定により決定する具体的要件を満たしていること。

ア 入札に付する工事に対応した業種の資格認定等を受けている者であること。

イ 資格審査取扱い基準における格付けに関する要件を満たしている者であること。

ウ 資格審査取扱い基準又は県外建設業者資格審査取扱い基準における審査項目に規定する総合点数に関する要件を満たしている者であること。

エ 建設業の許可に関する要件を満たしている者であること。

オ 営業所の所在地に関する要件を満たしている者であること。

カ その他住職が定める要件を満たしている者であること。

(工事ごとに定める入札参加資格要件の決定)

第5条 前条第2号に規定する工事ごとに定める入札参加資格の具体的要件を定めようとするときは、工事ごとに発注者が決定するものとする。

(設計図書等)

第6条 設計図書等の閲覧等については、入札公告に示した方法により行うものとする。

2 前項の閲覧等は、原則として、入札公告の期間について行うものとする。

(技術資料)

第7条 発注者の長は、第4条に規定する入札参加要件を確認するため、入札公告を行った後速やかに、入札参加資格要件を満たすことを証明する資料（以下「技術資料」という。）の作成に係る事項等を記載した技術資料作成要領を本競争入札に参加しようとする者（以下「入札参加者」という。）に対してホームページ等により、交付するものとする。

2 発注者の長は、前項の技術資料作成要領に記載する技術資料の作成に係る事項が簡易である場合は、その内容を入札公告に示すことにより、代えることができるものとする。

(最低制限価格の設定)

第8条 発注者の長は、特に必要と認める場合には、最低制限価格を設けることが

できる。

(入札書等の提出方法)

第9条 入札参加者は、発注者の長が工事ごとに指定する入札書等、必要書類を入札公告に示す場所に原則持参し提出しなければならない。ただし、郵送も可とする。

(入札書等の提出期間等)

第10条 入札書等の提出期間（以下「提出期間」という。）は、入札公告に定めた期間とする。

- 2 入札参加者は、入札書等を提出期間内に提出しなければならない。
- 3 提出期間外に提出した入札書等は、理由の如何にかかわらず受理しないものとする。
- 4 発注者の長は、入札参加者及び入札執行者の事務の軽減を図るために必要と認めるときは、同一の場所における複数の入札の提出期間を同一期間に設定することができるものとする。

(入札書等の不受理)

第11条 次の各号のいずれかに該当する入札書等は、不受理とし、当該入札書等を提出した者（以下「入札者」という。）に返戻するものとする。

(1) 提出期間外に提出された入札書等

(入札の不成立)

第12条 入札公告で定めた開札日時において、次の各号のいずれにも該当しない入札書を提出した者が2者以上ないときは、この入札を不成立とする。ただし、再度公告をして行う入札及び、発注者の長が特別に認める場合については、この限りではない。

(1) 金額の記入がない入札書

(2) 金額を訂正した入札書

(3) 第9条に規定する入札書でない入札書

(4) 入札書の建設業許可番号が記載されていない入札書

(5) 入札書の商号若しくは名称（経常建設工事共同企業体の場合は、共同企業体名及び代表幹事の商号又は名称）、住所又は代表者名のいずれかが記載されず、若しくは記載に誤りがあり、又は入札者の押印のない入札書

(6) 誤字、脱字等により意思表示が明確でない入札書

- (7) 同一人が同一の工事において2以上の入札書を提出した場合のそのすべての入札書
- (8) 談合その他の不正な行為によってされたことが明らかであると認められる入札に係る入札書（第15条第5項の規定により入札が成立したと判断された後に認められたものを除く。）
- (9) 第4条に規定する要件を満たさないことが明らかであると認められる者がした入札書（第15条第5項の規定により入札が成立したと判断された後に認められたものを除く。）

(失格)

第13条 次の各号のいずれかに該当する者は失格とし、失格となった者は落札候補者となることができない。

- (1) 金額の記入がない入札書により入札をした者
- (2) 金額を訂正した入札書により入札をした者
- (3) 第9条に規定する入札書を用いないで入札をした者
- (4) 入札書の建設業許可番号が記載されていない入札書により入札をした者
- (5) 入札書の商号若しくは名称（經常建設工事共同企業体の場合は、共同企業体名及び代表幹事の商号又は名称）、住所又は代表者名のいずれかが記載されず、若しくは記載に誤りがあり、又は入札者の押印のない入札書により入札をした者
- (6) 誤字、脱字等により意思表示が明確でない入札書により入札をした者
- (7) 同一の工事において2以上の入札をした者
- (8) 明らかに談合その他の不正な行為によって入札をしたと認められる者
- (9) 第4条に規定する要件を満たさない者
- (10) 最低制限価格未満の入札をした者
- (11) 指定された期限までに技術資料及び入札公告において特に提出を指示する書類がある場合はその書類（以下「技術資料等」という。）を提出しなかった者
- (12) 虚偽の技術資料を提出した者
- (13) 前各号に掲げる者のほか、入札公告において指示した事項に反して入札を行った者

(入札書等の受理)

第14条 入札執行者は、提出された入札書等は受領することとし、受領した入札書等が、第11条の規定に該当する場合は不受理とするものとする。

2 一度提出された入札書等の書換え、引換え又は撤回は、認めないものとする。

3 入札執行者は、第10条第4項により複数の入札の提出期間を同一期間内に設定した場合は、入札書投函箱を複数設置するなど、入札参加者が入札書等の提出先を混同しないよう努めるものとする。

(開札)

第15条 開札は、入札公告に示す日時及び場所において行うものとし、入札執行者は、開札予定時刻になったことを確認した後、開札する。なお、発注者の長が、入札者及び入札執行者の事務の軽減を図るため、入札公告において複数の入札の開札日時を同一の時刻とした場合においては、入札執行者が予め定めた順序により開札を行うことができるものとする。

2 入札執行者は、海南市職員の立ち会いのもと、開札するものとする。

3 入札執行回数は、1回とする。

4 入札執行者は、開札後直ちに入札書に通し番号を付し、提出のあった入札書の数を公表した上で、最低制限価格以上の価格で入札をした者のうち、予定価格の制限の範囲内の価格で最低の価格の入札をした者（以下「最低価格入札者」という。）から順に入札参加資格要件等の審査を行う旨を宣言し、開札手続を終了するものとする。

5 入札執行者は、開札手続終了後速やかに、入札書について第12条に規定する事由の有無を審査し、発注者の長は、同条の規定に基づき、開札日において当該入札が成立したか否かの判断を行うものとする。ただし、発注者の長は、入札成立後であっても、開札日において当該入札を不成立とすべき事由があったことを認めた場合は、当該入札を成立とした判断を取り消すこととする。

(落札候補者決定のための発注者の長による入札参加資格要件審査)

第16条 発注者の長は、前条の規定による当該最低価格入札者に対し技術資料等の提出を指示するものとする。

2 最低価格入札者は、発注者の長から技術資料等の提出を求められた場合には、提出を指示された日から起算して、原則として2日以内（休日を含まない。）に提出しなければならない。

3 最低価格入札者が2者以上ある場合は、発注者の長は、前項に規定する技術資料等の提出期限までの間に、当該最低価格入札者にくじを引かせ、順位を決定

するものとする。この場合において、くじを行う日時及び場所は発注者の長が指定するものとし、指定する日時及び場所に当該最低価格入札者が出席しない場合は、当該入札事務に関係のない職員にくじを引かせるものとする。

4 一度提出された技術資料の書換え、引換え又は撤回は、認めないものとする。ただし、発注者の長は、必要と認めたときは、すでに提出された技術資料に関しより詳細な資料を提出させることができるものとする。

5 発注者の長は、技術資料の受領後速やかに、最低価格入札者が第4条に規定する入札参加資格要件を満たしているか否かの審査を行うとともに、第13条の失格事由に該当しないことを確認した上で、落札候補者として決定する。この場合において、最低価格入札者が当該入札参加資格要件を満たしていないときは、次順位者に対し技術資料等の提出を指示し、落札候補者が決定できるまで順次審査するものとする。

6 前項の審査の結果における落札候補者が、当該審査以降において第13条の規定による失格となった場合には、前項後段の規定の例により落札候補者を決定するものとする。

7 入札参加資格要件の審査は、開札日の翌日から起算して原則として5日（休日を含まない。）以内に行わなければならない。

（落札決定方法）

第17条 発注者の長は、前条に規定する手続きを経て落札候補者となった者を落札者とするものとする。

（落札者の決定又は入札参加資格要件不適合の決定）

第18条 発注者の長は、前条の規定により落札者を決定したときは、当該落札者にファクシミリ又は電話により契約締結に必要な書類の提出を指示するものとする。

2 発注者の長は、第16条第5項の審査により当該最低価格入札者が当該入札参加資格要件を満たさないことを確認した場合は、当該最低価格入札者に対して通知をするものとする。

3 落札決定後、契約の日までの期間に、落札者（共同企業体の場合は構成員を含む。以下同じ。）が、第4条に定めるいずれかの要件を満たさなくなったときは、契約を締結しないものとする。この場合、発注者は落札者に対し、何ら責任を負わないものとする。

(入札参加資格要件を満たさないと認めた者に対する理由の説明)

第19条 前条第2項の通知を受理した者で当該通知に不服があるものは、当該通知が到達した日の翌日から起算して10日（休日を含まない。）以内に、発注者の長に対して当該入札参加資格要件を満たさないと認めた理由について説明を求めることができる。

2 当該入札参加資格要件を満たさないと認められた者が前項の説明を求める場合は、苦情申立書を持参し、又は郵送して行うものとする。

3 発注者の長は、第1項の規定により説明を求められたときは、苦情申立書を受理した日の翌日から起算して10日（休日を含まない。）以内に回答するものとする。

4 当該苦情の申立ては、第17条から第20条までの事務の執行を妨げないものとする。

(入札結果等の公表)

第20条 発注者の長は、対象工事の入札結果については、落札決定後に速やかに通知をする。

2 発注者の長は、前項の公表までの間、入札の経緯及び結果の問い合わせには、一切応じないものとする。

(入札の延期及び取り止め)

第21条 発注者の長は、本競争入札において、事故等が発生したとき、不正な行為等により必要があると認めるとき、又はその他やむを得ない事由が生じたときは、入札を延期し、又は取り止めることができるものとする。

(費用の負担)

第22条 入札書、技術資料等及び苦情申立書の作成並びに提出及び郵送に要する一切の費用は、入札参加者が負担するものとする。

(その他)

第23条 発注者は、入札参加者が提出した技術資料を、当該入札参加者に無断で使用しないものとする。

入札書

宗教法人 長保寺

代表役員 瑞樹 正哲様

入札金額

億	千	百	十	万	千	百	十	円
---	---	---	---	---	---	---	---	---

(税込)

ただし、和歌山県海南市下津町上 長保寺境内地内

業務名 国宝(建造物)長保寺大門ほか2棟保存修理事業(災害復旧)(仮) 入札金
設計監理業務

上記の金額をもって入札します

平成 年 月 日

住所

氏名

印

備考

- 1 金額の数字は、アラビア数字を使用すること。
- 2 金額を訂正したものは、無効とする。
- 3 金額以外の訂正又は抹消箇所には、押印すること。